



東京学芸大学リポジトリ

Tokyo Gakugei University Repository

絵本を用いた言語コミュニケーションの育成：言語 発達を促す絵本活用時のポイント（幼稚部）

メタデータ	<p>言語: Japanese</p> <p>出版者: 東京学芸大学附属特別支援学校</p> <p>公開日: 2025-06-23</p> <p>キーワード (Ja): ETYP: 教育実践, STYP: 特別支援学校</p> <p>キーワード (En):</p> <p>作成者: 井上, 剛, 小家, 千津子, 菅野, みちる, 北村, 柚葵, 樋之口, 礼, 池田, 一成, 橋本, 創一, 松本, 幸代</p> <p>メールアドレス:</p> <p>所属: 東京学芸大学附属特別支援学校, 東京学芸大学附属特別支援学校, 東京学芸大学附属特別支援学校, 東京学芸大学附属特別支援学校, 東京学芸大学, 東京学芸大学, 東京学芸大学</p>
URL	<p>https://doi.org/10.50889/0002001033</p>

絵本を用いた言語コミュニケーションの育成

—言語発達を促す絵本活用時のポイント—

井上 剛 小冢千津子 菅野みちる 北村柚葵 樋之口 礼
池田一成 橋本創一 松本幸代（東京学芸大学）

I はじめに

保育所保育指針、幼稚園教育要領では「環境」「言葉」「表現」の各領域で絵本や物語、紙芝居の扱いに関する記載が見られ、幼児期のことばの発達において絵本が果たす役割は大きい。特に「言葉」の領域においては、現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出会うことになるため、幼児期に絵本や物語の世界に浸る体験が大切であることや、ことばの獲得における絵本の重要性が指摘されている。本校の研究で設定したことばの役割で考えると、例えば「人と関わる」為のことばの獲得の際には、絵本を介して人に接し、その面白さや楽しさを共有するなどの面で絵本は役立つ。また、「知らないことを知る」為のことばの獲得の際には、絵本の内容から様々な情報を受け取り、それを身に付けていくことができる面でも役に立つ。本校幼稚部でも、日々の遊びや活動の中で絵本を大いに活用している。

一方で、知的障害児の教育においてはその活用の仕方に課題がある。幼児期における言語発達を促すための絵本の活用方法については日々模索中であり、本校幼稚部においても個々の実態に合った絵本の選定や活用の仕方を探っている。また、同じような課題を抱えている保育者、教育者も多いのではないかを思われる。

以上のことから幼稚部の研究では、幼児期の子どもに接する保育者、教育者が抱える絵本活用時（特に絵本の読み聞かせ時）の実態や課題を探り、言語発達や人との関りを促す絵本の選定やその活用のポイントをまとめることを目的とした。

II 方法

以上のことを踏まえ、今年度は下記の手続きで研究の目的に迫っていくこととした。

1. 絵本活用に関する調査を行い、現場の実態や課題を探る。

1) 対象

東京都・埼玉県の各 500 の保育所保育士・幼稚園教諭および全国 1102 の特別支援学校（低学年）教諭を対象とした。

2) 調査手続き

2023 年 8 月に質問紙を郵送し、返送または Web アンケートフォームに直接回答を依頼した。

3) 倫理的配慮

得られた情報が研究目的以外で使用されないこと、匿名性が保たれるよう配慮することで同意を得た。

4) 質問項目

I フェイスシート

II 言葉の発達や人との関わりを育てるための絵本に関する質問（読み聞かせの際に心がけていること）

III 絵本の読み聞かせ場面での課題

IV 絵本の読み聞かせ場面において担当している幼児・児童1名を想定した質問

① 想定した幼児・児童のプロフィール

② 好きな絵本（タイトル）

③ その絵本の楽しみ方

※上記II-①/III/IV-② は自由記述回答（KJ法で分類）。他は選択回答。

2. 本校在籍幼児が関心をもつ絵本やその特徴を抽出する。
3. 幼児の言語表出の状態、人との関わりの様子を記録する。
4. 上記を踏まえて言語発達を促す絵本の選定やその活用のポイントをまとめる。
5. 絵本活用の実践を行い、評価・改善を繰り返す。

III 結果

1. 絵本活用に関する調査結果

現場の保育者、教育者への調査の結果を以下に抜粋して記す。

質問項目II：言葉の発達や人との関わりを育てるための絵本に関する質問（読み聞かせの際に心がけていること）

特別支援学校教諭からの回答では、「登場人物の動き・感情・状況を、読み方の工夫（声の高低・大小・速度・リズム・メロディー・間）によって表現する」の回答が最も多く挙げられた。次いで「登場人物の動きを自分の動作でも表現する」、「子どもが真似しやすい動作を繰り返す」などが挙げられた。一方、保育所・幼稚園の保育士・幼稚園教諭からの回答では、最も多かったのは特別支援学校教諭と同じ「登場人物の動き・感情・状況を、読み方の工夫（声の高低・大小・速度・リズム・メロディー・間）によって表現する」であったが、次いで「ゆっくり・はっきりと読む」、「同じ単語やフレーズを繰り返す」などが挙げられた。特別支援学校では、ことばのみならず動作を伴うといった工夫が見られた。【表1】

【表1】絵本に関する調査（II）

結果（抜粋）： II 言葉の発達や人との関わりを育てるための絵本に関する質問 読み聞かせの際に心がけていること		
順位	特別支援学校	保育所・幼稚園
1	登場人物の動き・感情・状況を読み方の工夫（声の高低/大小/速度/リズム/メロディー/間）によって表現する	登場人物の動き・感情・状況を読み方の工夫（声の高低/大小/速度/リズム/メロディー/間）によって表現する
2	登場人物の動きを自分の動作でも表現する	ゆっくり・はっきりと読む
3	子どもが真似しやすい動作を繰り返す	同じ単語やフレーズを繰り返す

質問項目Ⅲ：絵本の読み聞かせ場面での課題

特別支援学校教諭、保育所・幼稚園の保育士・幼稚園教諭いずれの回答も「注目のさせ方」に課題を感じているようであった。次いで、「実態差のある中での注目のさせ方」、「絵本の選び方」が課題として挙げられた。発達段階や興味関心の異なる子どもたちの注目を得られるような読み方や絵本の選定に課題があると考えられる。【表2】

【表2】絵本に関する調査（Ⅲ）

結果(抜粋)： Ⅲ読み聞かせ場面での課題		
順位	特別支援学校	保育所・幼稚園
1	注目のさせ方	注目のさせ方
2	実態差のある中での注目のさせ方	実態差のある中での注目のさせ方
3	絵本の選び方	絵本の選び方

質問項目Ⅳ：絵本の読み聞かせ場面において担当している幼児・児童1名を想定した質問

①想定した幼児・児童のプロフィール

②好きな絵本（タイトル）

絵本のタイトルは多岐にわたっていたが、特別支援学校で知的障害のある児童の場合は「だるまさんシリーズ」（作：かがくいひろし、出版：ブロンズ社）、「おおきなかぶ」（再話：A・トルストイ、訳：内田莉沙子、画：佐藤忠良、出版：福音館書店）、「おめんです」（作：いしかわこうじ、出版：偕成社）、「おべんとうバス」（作：真珠まりこ、出版：ひさかたチャイルド）、「ノンタンシリーズ」（作：キヨノサチコ、出版：偕成社）などが好まれている一方で、特別支援学校で知的障害に自閉症スペクトラム障害を伴う場合は、「はらぺこあおむし」（作：エリック・カール、訳：もりひさし、出版：偕成社）など、曜日や数字を扱う絵本も好まれていた。また、保育所・幼稚園では図鑑が多くを占めており、特別支援学校と絵本の扱い方に違いがあることが予測された。【表3】

【表3】絵本に関する調査（Ⅳ）

結果(抜粋)： Ⅳ読み聞かせ場面において担当している幼児・児童1名を想定 ②好きな絵本			
順位	特別支援学校 (知的障害)	特別支援学校 (知的障害+自閉症スペクトラム)	保育所・幼稚園 (軽度知的障害 /談話可能レベル)
1	だるまさんシリーズ	はらぺこあおむし	図鑑
2	おおきなかぶ おめんです	だるまさんシリーズ	はらぺこあおむし
3	おべんとうバス ノンタンシリーズ	ぞうくんのさんぽ	ミッケ!シリーズ だるまさんシリーズ 100かいだてのいえ

2. 本校在籍幼児が関心をもつ絵本やその特徴の抽出

本校幼稚部に在籍している4歳児2名（男児）と5歳児2名（うち男児1名）の計4名を対象に個々の幼児が関心をもつ絵本やその特徴の抽出を行った。障害種別は、自閉症スペクトラム障害（知的障害を伴う）3名、染色体異常1名であった。発語の段階は発声のみの段階から談話レベルの幼児までおり、実態差が大きい集団であった。関心をもつ絵本を抽出すると、「おもちゃのチャチャチャ」（作：市原淳、出版：ひさかたチャイルド）や「ようかいしりとり」（作：おくはらゆめ、出版：こぐま社）など歌や手遊びを伴うもの、「きんぎょがにげた」（作：五味太郎、出版：福音館書店）や「へんしんトンネル」（作：あきやまただし、出版：金の星社）など繰り返し表現を伴うもの、そして「パンダのあかちゃんおととと」（作：まつもとさとみ、文：うしろよしあき、絵：わたなべさとこ、出版：KADOKAWA）や「はっきよいどーん」（作：やまもとななこ、出版：講談社）など体を動かして遊べるものに分類することができた。【表4】

【表4】本校在籍幼児が関心をもつ絵本やその特徴（抜粋）

	うた・手遊び	繰り返し表現	体を動かして遊べる
幼児A	おもちゃのチャチャチャ ようかいしりとり	きんぎょがにげた へんしんとんねる みんなうんち	パンダのあかちゃん おととと
幼児B	おもちゃのチャチャチャ	きんぎょがにげた へんしんトンネル	
幼児C	ようかいしりとり はたらくくるま		はっきよいどーん
幼児D		へんしんとんねる みんなうんち	パンダのあかちゃん おととと

3. 言語発達を促す絵本の選定やその活用のポイント

絵本活用に関する調査結果と本校在籍幼児が関心をもつ絵本やその特徴の抽出結果を基に、言語発達を促す絵本の選定やその活用（特に読み聞かせ時）のポイントをまとめると、以下の4つが挙げられた。

- 1) 歌に合わせて絵本が展開したり、手遊び歌等が導入されたりしているものを使用し、絵本を楽しめるようにする。
- 2) 人とのやりとりを促す機会が設けられているものを使用し、指さしや発声、発語などを促す。
- 3) 繰り返しのことばで幼児の発声や発語を引き出しやすいものを使用し、楽しみながら台詞を発したり文字に興味を示したりすることを促す。
- 4) 絵本の世界観を基に実際に体を動かして遊べるものを使用し、様々な参加の仕方を受け止めながら楽しめるようにする。

言語コミュニケーション発達の初期段階の幼児や絵本で楽しむ経験が少ない幼児には1)のタイプ。指さしによる応答や発声、発語がある幼児には2)のタイプ。発語がある、あるいは

簡単なことばによるやりとりができる幼児には3)のタイプ。絵本の世界観で登場人物等になりきって楽しめる幼児や興味関心の幅が狭く注意が持続しにくい幼児、読み聞かせ場面等の小集団への参加が難しい幼児には4)のタイプが有効と考えられる。

4. ポイントを踏まえた絵本活用の実践による幼児の変化

上記にまとめたポイントを踏まえ、絵本活用の実践を行った。本校幼稚部では、親しい大人の支えで安心して楽しめる小集団の遊びを通じて、自ら活動に参加しようとするのと要求表出等のコミュニケーションを支援する場として、毎朝集まりの活動(「朝の集まり」)を設定している。本実践では、この「朝の集まり」の中で通年実施している歌や遊びのリクエスト(「リクエストコーナー」)を、幼児一人一人の言語コミュニケーションの発達に応じ、計画的に絵本を選定し提供する「絵本コーナー」に変更し、毎週1回(主に金曜日)実施した。「絵本コーナー」の時間には、幼児一人ひとりの発達段階や興味・関心、季節や年中行事にも考慮して上記3~4つのタイプの絵本を選定して読み聞かせを行った。以下に、実践による幼児(抜粋して2名)の変化を記す。【表5】【表6】

【表5】絵本活用の実践による幼児の変化(事例1)

4歳児(男児) 障害種:自閉スペクトラム症(知的障害を伴う)	
【4-6月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本は座って静かに見ているのみであった。 ・友だちや教員との関わりは少なく、発語もほとんどなかった。(「えんえ」「やいやい」など発声はあった。) ・要求場面では、教員の手を引いて欲しいものを取ってもらっていた。 	
【7-9月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の「どこ?」等のセリフに指さしで答える姿が増えてきた。 ・好きな絵本を教員の所へ持って行き、「で(読んで)」と言葉で要求する姿が見受けられるようになってきた。 ・家庭で家族と一緒に絵本の内容や場面を再現して遊ぶようになってきた。 	
【10-1月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・教員のダンスを真似して遊ぶ様子が増え、要求場面でも教員の模倣をして「これ」や「とって」などと言えることも増えてきた。 ・色々な絵本の世界観をブロックなどで再現したり、教員とごっこ遊びをしたりするようになってきた。 ・家庭でも発語が増え、「まてまてー」「どこ?」「はっけーん」など遊びながら絵本のセリフを発することが増えた。絵本のタイトルの文字を指さして読む姿も見られるようになってきた。 	

【表6】絵本活用の実践による幼児の変化（事例2）

5歳児（女児） 障害種：自閉スペクトラム症（知的障害を伴う）	
【4－6月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・2語文程度の発語はあるが、興味関心の幅が狭く活動への注意の持続が難しかった。 ・絵本に興味を示すことは少なく、絵本の読み聞かせ場面では自分の世界観に入り込んで歌を歌ったり踊ったりしていることが多かった。 	
【7－9月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・好きな絵本や紙芝居を教員に読んでもらうことが多くなった。 ・校内にお気に入りの絵本を見つけ、教員と一緒にそれを取りに行きたいと要求することも増えた。 	
【10－1月の様子】	
<ul style="list-style-type: none"> ・絵本を見ながら体をダイナミックに動かして絵本の世界観を楽しむ姿が増えた。（例：相撲をしながら相撲の本を再現） ・絵本の再現遊びを楽しむ中で、人とのやりとりや模倣が見られるようになってきた。結果として絵本の読み聞かせに興味が出てきて、注目する時間も増えた。 ・読み聞かせ場面以外でも繰り返し絵本を楽しむことも増えた。 	

IV 考察

本研究では、現場の保育所保育士・幼稚園教諭および特別支援学校（低学年）教諭を対象に実施した調査結果や、本校在籍幼児が関心をもつ絵本やその特徴の抽出結果を踏まえて、人との関わりや言語発達を促す絵本の選定やその活用（特に読み聞かせ時）のポイントを検討し、実践を重ねてきた。事例1・2の幼児ともに、人とのやりとりの幅が広がったり、言語発達が促進されたりする姿が見られた。

事例1の幼児の人との関わりや発語が促された背景には、絵本の読み聞かせ場面のみならず、それ以外の場面において遊びの展開の仕方や環境設定も重要な要素としてあると考えられる。「朝の集まり」の「絵本コーナー」がきっかけとなりお気に入りの絵本ができると、自由遊び場面でもその絵本の内容を再現して遊べるように環境を用意し、更に周りの教員と一緒に遊び言葉を膨らませるような関わった（絵本の繰り返しのフレーズ「もーいいかーい」「まーだだよー」「みつけた」など）。また、家庭とも関心をもっている絵本を共有することで、家族で絵本の再現遊びをするようにもなった。人と言葉を使って遊ぶ環境が学校でも家でも用意されていたことは、人との関わりや発語が促された大きな要因ではないかと予測される。

事例2の幼児は、当初は興味の幅が狭く、関心の薄い絵本への注意の持続が難しい実態があった。しかし、本児が好きな歌やダンス、体をダイナミックに使った遊びの要素を絵本と関連させながら楽しむ経験を重ねることで、徐々に絵本への関心が広がったり人とのやりとりや教員の模倣ができるようになってきたりしたのではないかと考えられる。人の模倣をする力を、その他の生活場面や家庭でも発揮できるようになり、食前食後の「いただきます」や「ごちそうさまでした」の挨拶などに関しても大人の模倣をして言葉を発することができるようになってきた。

一方で、絵本活用に関する調査結果において絵本活用時の課題として挙げられた「実態差のある中での注目のさせ方」に関しては課題が残っている。本校在籍幼児は4名という小集団であったが、調査対象者の保育所・幼稚園では更に大きな集団での読み聞かせが行われていると推察される。その状況下で認知段階や注意の持続力などに実態差のある集団への注目のさせ方には迫ることができなかった。更なる調査や大きな集団をもつ環境下での実践が必要になると思われるため、今後の課題としたい。

参考文献

厚生労働省（2018）保育所保育指針解説

文部科学省（2018）幼稚園教育要領解説

資料

資料1 研究授業「朝の集まり～絵本の世界を味わおう～」指導案

資料2 令和5年度研究協議会 幼稚部分科会 講演資料
松本幸代 講話「言語コミュニケーションと絵本」

資料 1

幼稚部 コミュニケーション支援

「朝の集まり」学習指導案

日 時：令和 6 年 1 月 26 日（金曜日）10:00～10:25
対 象：幼稚部ひかり組 4・5 歳児学年（男子 3 名 女子 1 名）
場 所：幼稚部ひかり組教室
指導者：井上剛(MT)、樋之口礼(ST1)、菅野みちる(ST2)、小家千津子(ST3)

1. 題材名 「朝の集まり～絵本の世界を味わおう～」

2. 題材設定の理由

幼児期のことばの発達において絵本が果たす役割は大きい。保育所保育指針、幼稚園教育要領では、「環境」「言葉」「表現」の各領域で絵本や物語、紙芝居の扱いに関する記載が見られ、「言葉」の領域において、現実には自分の生活している世界しか知らない幼児にとって、様々なことを想像する楽しみと出会うことになるため、幼児期に絵本や物語の世界に浸る体験が大切であることや、ことばの獲得における絵本の重要性が指摘されている。一方、今年度本校幼稚部を中心に実施した保育所、幼稚園、特別支援学校を対象にした調査では、発達段階や障害特性、興味関心に差のある集団への絵本の読み聞かせの難しさが、絵本活用における課題であることが分かった。そのため絵本を活用した言語活動を計画する際には、一人一人の実態に合わせた明確な目標設定が必要であると考えます。

本校には、知的障害を伴う自閉症スペクトラム障害 3 名（5 歳児 2 名、4 歳児 1 名）、染色体異常 1 名（4 歳児 1 名）の幼児が在籍している。発語は無く感情表現の際に発声をする段階の幼児、単語レベルの幼児、2 語文を話す幼児、大人と簡単なことばのやり取りができる幼児と、発語の段階や言語理解は様々である。また、自由遊びにおいて絵本や紙芝居を好む幼児は多いが、興味関心には個人差があるため、集団への絵本読み聞かせでは本の選定に難しさがある。

幼稚部では、親しい大人の支えで安心して楽しめる小集団の遊びを通じて、自ら活動に参加しようとする事と要求表出等のコミュニケーションを支援する場として、毎朝集まりの活動（「朝の集まり」）を設定している。本題材では、この「朝の集まり」の中で通年実施している歌や遊びのリクエスト（「リクエストコーナー」）を、幼児一人一人の言語コミュニケーションの発達に応じ、計画的に絵本を選定し提供する「絵本コーナー」に変更し、毎週 1 回（主に金曜日）実施する。なお、絵本の選定は、本校に在籍する幼児の興味関心、保育所・幼稚園・特別支援学校への調査の結果も参考に、以下に挙げる絵本のもつ 4 つの要素に注目し、季節や年中行事にも考慮して行う。具体的には、①歌に合わせて絵本が展開したり、手遊び歌等が導入されたりしているもの、②人とのやり取りを促す機会が設けられるもの、③繰り返しのことばで幼児の発声や発語を引き出すもの、④絵本の世界観をもとに実際に体を動かして遊べるもの、の 4 つに焦点を当てたものとなっている。本授業では、言語コミュニケーションの発達の初期段階や絵本で楽しむ経験が少ない幼児を対象に上記①から選定する。指さしによる応答や発声、発語がある幼児を対象に、繰り返しの展開の中で見通しをもって人とのやり取りを何度も経験できる上記②から選定する。発語がある、あるいは簡単なことばによるやり取りができる幼児を対象に、楽しみながら台詞を発したり、文字に興味を示したりできる上記③から選定する。絵本の世界観で登場人物等になりきって楽しめる幼児や、興味関心の幅が狭く注意が持続しない幼児、そもそも読み聞かせ場面等の小集団への参加が難しい幼児を対象に、幼児の様々な参加の仕方を受容的に受け止め絵本の世界観を一緒に楽しめるよう、上記④から選定する。

以上のように、集まり活動の中で、幼児の実態に応じて絵本を活用した活動を計画的に実施すること、並びに幼児の活動の中心となる自由遊びや日常生活場面などの環境を相互補完的に展開することで、言語コミュニケーション能力の向上を期待している。

3. 目標

- 絵本やそのお話の世界観に興味をもち、楽しむ。
- 絵本を通して大人や友達と簡単なやり取りをする。

4. 指導計画

総時間 9 時間 本時 10/13

I 期	<p>10月24日</p> <p>10月30日</p> <p>11月10日</p> <p>11月17日</p> <p>11月24日</p>	<p>活動内容：始まりの歌・日付天気・名前呼び・がんばりマンの歌・絵本コーナー・課題遊びの発表</p> <p>指導の重点：集まりに「絵本コーナー」があることが分かる。</p> <p>指導上の配慮：環境の構成や導入の歌により、「絵本コーナー」が始まることを知らせる。</p> <p>取り扱う絵本：①歌に合わせて展開する/②人とのやりとりがある/③繰り返しのことばがある/④絵本の世界観で遊べる</p> <p>「おべんとうばこのうた」(①) / 「おべんとうバス」(①②) / 「きんぎょがにげた」(②) / 「あきのおさんぽいいものいくつ？」(②③) / 「さつまのおいも」(②④) / 「まっかっかふね」(③) / 「ねずみのえんそくもぐらのえんそく」(④) 他</p>
II 期	<p>12月1日</p> <p>12月8日</p> <p>12月15日</p> <p>1月12日</p> <p>1月19日</p> <p>1月26日(本時)</p> <p>2月2日</p> <p>2月9日</p>	<p>活動内容：I期同様</p> <p>指導の重点：絵本の世界観を楽しんだり、絵本を通じて人とのやり取りをしたりする。</p> <p>指導上の配慮：季節の行事や幼児の生活場面、課題遊びとの相互補完的な関係にも留意する。</p> <p>取り扱う絵本：</p> <p>「おにのパンツ」(①) / 「はたらくるま」(①) / 「あぶくたった」(①②) / 「ようかいしりとり」(①③) / 「はっはっはくしょーん」(②③) / 「うずらちゃんのかくれんぼ」(②③) / 「おおきなかぶ」(②③) / 「こわくないこわくない」(③) / 「パンダのあかちゃんおとっと」(③④) / 「はっきょいどーん」(③④) 他</p>

5. 本時の学習

1) 本時の目標

- 絵本に興味をもって見たり、体を使って楽しんだりする。
- 絵本を通して大人と簡単なやり取りをしたり、繰り返しのことば等を言ったりする。

2) 幼児の実態と個人目標

【個人目標☆・手だて○(個別教育計画に関連した目標★・手だて●)】

幼児	実態	個人目標	指導の手だて	関連する個別教育計画の目標
A	<p>・自由遊び場面では、自ら絵本を手にとって大人に読んでもらったり、絵本の世界観を積み木で再現して遊んだりすることがある。</p> <p>・絵本に登場する動物や虫を指さして名前を大人に伝えることがあ</p>	<p>☆お話の展開にあわせ体を動かしたり、表情を変えたりする。</p> <p>★<u>繰り返しのことばを言う。</u></p>	<p>○MTは指さして注意を促したり、話の展開により声の強弱等を変化させたりする。</p> <p>●<u>MTは繰り返しのことばを読む</u></p>	<p>・ことばを使う経験を積</p>

	る。絵本のタイトルの文字に興味をもつようになった。要求や挨拶のことばは学習中である。		<u>直前に間をとって待つ。</u>	む。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・食べ物が出てくる絵本、繰り返しの展開やカラフルな色彩の絵本を好む。好きなシーンやお話の終わりでは笑顔になったり、手を叩いたりすることもある。 ・発語はまだないが、嬉しい時や機嫌が良い時に発声がある。要求時には指さしや大人の促しでサインを使って伝えることがある。 	☆絵本に注目し体を動かしたり、笑顔になったりする。	○音楽や歌、返しのことばに抑揚をつけるなどして楽しい雰囲気を作る。	
C	<ul style="list-style-type: none"> ・興味関心のない絵本はほとんど見ない。一方、絵本の気に入った場面を何度も大人に読んでもらったり、自ら繰り返しのことば等を口ずさんだりすることもある。 ・親しい大人に要求する時に2～3語文で伝えられるようになってきた。大人からの問い掛けにことばで応じることは少ない。 	☆絵本の好きな場面を見たり、お話に合わせて大人と体を動かして遊んだりする。	○MT は好きな音楽や歌の絵本、体を動かして遊べる絵本を採用する。ST は楽しい雰囲気を作り一緒に遊ぶ。	
D	<ul style="list-style-type: none"> ・凶鑑以外に3歳児対象程度の絵本を自分で読むことがある。大人と絵本の世界観で遊んだり、話したりすることがある。 ・平仮名、片仮名、数字、一部の漢字が読める。発音に不明瞭な部分があるが、大人と簡単なことばのやり取りができる。テレビや動画の内容や台詞を言うことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆お話の展開にあわせ体を動かしたり、表情を変えたりする。 ☆文字(台詞や繰り返しのことばなど)に興味を抱き読む。 	<ul style="list-style-type: none"> ○MT は読み始める前に、簡潔に絵本の内容を伝え期待感を高める。 ○MT は短い文章を指さしたり、間をとって待ったりする。 	

3) 準備物

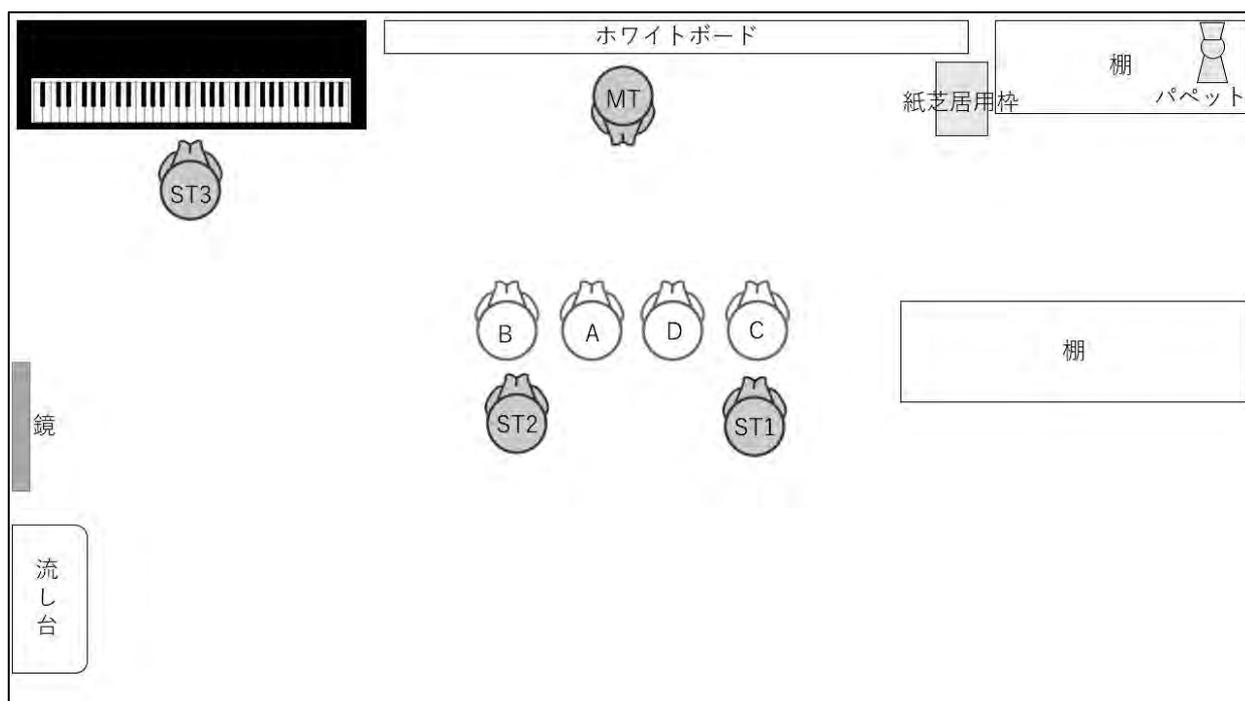
各活動等の絵カード・幼児顔写真カード・パペット（人形）・紙芝居用枠・絵本

4) 展開

時間	学習活動	指導内容	指導上の留意点	個人目標☆手だて○（個別教育計画に関連した目標★手だて●）			
				A	B	C	D
10:00	<p>○「はじまるよ」の手遊びをする。</p> <p>○挨拶をする。</p> <p>○日付・天気の確認をする。</p> <p>○呼名に応じ返事をする。</p>	<p>○活動が始まることに気付く。</p> <p>○教員に注目して集まる。</p> <p>○朝の挨拶を知る。</p> <p>○天気に関心をもつ。</p> <p>○教員に注目し、呼名に応じる。</p>	<p>○ST3はピアノを弾く。</p> <p>○幼児の模倣や見ている姿を認め、楽しい雰囲気を作る。</p> <p>○MTは幼児のことばを引き出す言葉掛けをする。</p> <p>○幼児1～2人のみ質問する。</p> <p>○MTはA、Bの正面で視線を合わせて呼名する。</p>	<p>☆絵本の注目したり、笑顔になったりする。</p> <p>○音楽や歌、返しのことばによる抑揚をつけて楽しむ。</p>	<p>☆絵本の好きな場面を見たり、お話に合わせて大人と遊んで動かしたりする。</p> <p>○MTは好きな音楽や歌の絵本、体を動かして遊べる絵本を採用する。</p>	<p>☆お話の展開にあわせたり、表情を変えたりする。</p> <p>○MTは読み始める前に、簡潔に絵本の内容を伝え始める。</p>	
10:10	<p>○「がんばりマン」を歌ったり、身振りを模倣したりする。</p> <p>○オープニング（「幕をあけよう」）を聞き、絵本の読み聞かせを楽しむ。（「絵本コーナー」）</p>	<p>○「絵本コーナー」が始まることを知る。</p> <p>○絵本に興味を抱き、教員とやり取りしたりする。</p>	<p>○STは着席を促したりして注目を促す。</p> <p>○STは絵本により返歌ったり、繰り返しのことばを一緒に言ったりし楽しい雰囲気を作る。</p>	<p>☆絵本の注目したり、笑顔になったりする。</p> <p>○音楽や歌、返しのことばによる抑揚をつけて楽しむ。</p>	<p>☆絵本の好きな場面を見たり、お話に合わせて大人と遊んで動かしたりする。</p> <p>○MTは好きな音楽や歌の絵本、体を動かして遊べる絵本を採用する。</p>	<p>☆お話の展開にあわせたり、表情を変えたりする。</p> <p>○MTは読み始める前に、簡潔に絵本の内容を伝え始める。</p>	

10:20	○次の予定を聞く。 ○挨拶をする。	○活動に見通しをもつ。 ○活動の終わりが分かる。	○次の活動に関する教材等を提示する。	★ <u>繰り返し返すことばを言う。</u> ● <u>MTは繰り返し返すことばを誦む直前に間をとって待つ。</u>		は楽しい雰囲気を作り一緒に遊ぶ。	☆文字(台詞や繰り返し返すことばなど)に興味を抱き読む。 ○MTは短い文章を指さしたり、間をとって待ったりする。
10:25							

5) 備考



6 本時の評価

1) 個人目標の評価

児童	個人目標	評価	コメント
A	☆お話の展開にあわせ体を動かしたり、表情を変えたりする。 ★ <u>繰り返しのことばを言う。</u>	○ △	常時注目するもことばは無かった。
B	☆絵本に注目し体を動かしたり、笑顔になったりする。	○	声を出して喜んだり、拍手をしたりした。
C	☆絵本の好きな場面を見たり、お話に合わせて大人と体を動かして遊んだりする。	欠席	
D	☆お話の展開にあわせ体を動かしたり、表情を変えたりする。 ☆文字（台詞や繰り返しのことばなど）に興味を抱き読む。	○ ○	教員と一緒に絵本の登場人物の台詞を読んだ。

2) 個別教育計画の評価

児童	個別教育計画との関連事項					
	個別教育計画からの目標	個人目標達成度評価	場面の適切性評価	手だての適切性評価	次時への課題	個別教育計画への課題
A	★ <u>繰り返しのことばを言う。</u>	△	○	○	指導を継続する。	指導場面を増やす。

3) 授業の評価

項目	評価内容	評価およびコメント
目標	1 本時の目標は達成できたか。	○
	2 本時の目標は適切であったか。	○
活動	3 本時の目標にあった学習活動であったか。	○
手だて	4 教材は適切であったか。	○
	5 教材の提示方法は適切であったか。	○
	6 教材の使い方は適切であったか。	○
	7 教示方法は適切であったか。	○
	8 子どもへの援助方法は適切であったか。	○
	9 集団の統制は適切であったか。	○
	10 子どもの反応のとらえ方は適切であったか。	△：A がことばを発するまでどの程度間を取るかは検討を要する。
TT	11 教員間の役割分担と連携は適切であったか。	○：欠席幼児がいたため ST2 は参加しなかった。
学習環境	12 本時の時間配分は適切であったか。	○
	13 場面の設定は適切であったか。	○

4) 指導計画の評価

題材名「朝の集まり～絵本の世界を味わおう～」 総時間数：13 授業日：10月～2月（金曜日）		
指導形態に関して	指導内容に関して	時間数に関して
幼児の実態に合わせ、生活経験や遊びを通じた指導が中心となるため適切と考える。	ことばやコミュニケーションの支援に絵本の果たす役割は大きいため、幼児の実態に合わせた絵本の読み聞かせに特化した指導内容は適切と考える。	回数を重ねる毎に、幼児が見通しや期待感をもって参加する姿が見られたため、同じ曜日に複数回実施したことは適切と考える。

言語コミュニケーションと 絵本

研究協議会 幼稚部分科会 2024年1月26日

東京学芸大学特別支援科学講座
松本 幸代

1

子どもがことばを話すようになるのはいつ？

喃語期
↓
1語発話期 (1歳頃)
「ママ」「パパ」「マンマ」
↓
2語発話期 (1歳半頃)
「ブブー あった」「ママ いた」
↓
多語発話期 (2歳頃)
「あおい ブブー いっちゃった」

2

ことばの発達①

喃語期(前言語期)

1. 「アアアア」: 過渡的喃語、不完全な喃語 (4~6か月)
2. 「ババババ……」「ママママ……」: 基準喃語 (6~10か月)
 - ① 音声言語の基本的単位である子音+母音構造
 - ② 複数の音節から構成され、リズムカル

基準喃語の出現は音声言語獲得への重要な第1歩。
(江尻・正高, 1999)

3

ことばの発達②

- 1語発話期 (1歳頃)
「ママ」「パパ」「マンマ」
- 2語発話期 (1歳半頃) 電文体発話
「ブブー あった」「ママ いた」
語彙爆発 語彙スパート
- 多語発話期 (2歳頃)
「あおい ブブー いっちゃった」
子どもに与えられる
インプットの重要性

4

子どもに対する語りかけ

- ・やさしい語彙を用いる 絵本は
- ・子どもの理解力にあった文を用いる どうだろうか？
- ・適切な語りかけの速度や抑揚に留意する
- ・語りかけに身振りを添えると、子どもは理解しやすい
- ・一定の流れやくり返しがある場面は言語学習の重要な足場
→言語発達に遅れのある子どもが語彙や文を獲得するには
高頻度で聞く経験が必要

5

鈴木 孝明 (2020)

絵本の文法

一日本語の絵本テキストにおける文法の複雑さと多様性—
The Science of Reading, 61.

6

はじめに

- ・子どもが受け取る言語インプットは、養育者や家族など、周りの大人からの語りかけによるものが中心。
- ・このような言語インプットは通常、CDS(対幼児発話: child-directed speech)と呼ばれ、言語発達において重要な役割を果たす。
- ・絵本の読み聞かせによる言語インプットが子どもの言語発達にとって大きな効果をもたらす可能性が指摘されている。

(鈴木, 2020)

7

目的

- ・言語に関わりなく、絵本には、CDSよりも多様な語が含まれていることが報告されている。
- ・本研究では、日本語の絵本テキストにはCDSよりも複雑な文が多く含まれるのかどうか調査した。

(鈴木, 2020)

8

方法

- ・絵本テキストとして、福音館書店発行の『絵本の与えかた』に掲載されている2, 3歳児を対象とした絵本リストを利用した。
- ・CDSに関しては、2, 3歳児の13組の母子会話のデータを分析した(CHILDESデータベース)。

(鈴木, 2020)

9

表1 分析対象とした絵本とCDS

絵本	CDS	
	文の数	子どもの年齢と性別
てねとてね	49	2;2 (男)
もりのなか	33	2;5 (男)
あかちゃんちゅうちゅう	111	2;5 (女)
とこちゃんほごこ	49	2;7 (女)
だんごころり	46	2;9 (女)
たろろのともだち	45	2;11 (男)
せうくんのさんぽ	27	3;0 (女)
ておくり	30	3;2 (男)
三つきのあまのがらからとん	37	3;3 (男)
はなをてんてん	32	3;5 (女)
小さな鳥	36	3;7 (男)
おやすみなさいの絵本	28	3;9 (女)
おひさまかぶ	16	3;11 (女)
たすねばいのかみ	11	
かばく	30	
合計	426	320

(鈴木, 2020)

10

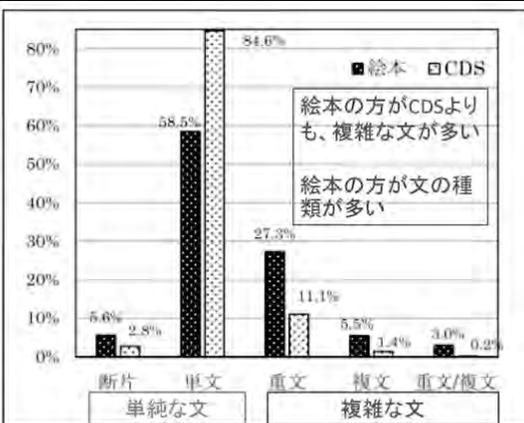


図1 絵本とCDSにおける文構造の割合 (鈴木, 2020)

11

まとめ

- ・絵本の方がCDSよりも、複雑な文や様々な文法情報が多い。
- ・CDSでは、文法手段に多くを頼らず、単純な文構造を用いることで、円滑な母子コミュニケーションを行っている。
- ・親からの言語インプットとは異なる絵本の言語インプットは、子どもの文法発達にとって重要な情報源であり、文法の学習を促進する1つの要因になる可能性がある。(鈴木, 2020)

＋ 本日の幼稚園での授業のように、子どもが絵本に関心をもち、楽しめるような読み聞かせの工夫をすると効果的

12